



神社と四季「サツキが彩る春の神門」

広島県神社庁報
ふたば

第123号

発行所 広島県神社庁
広島市東区二葉の里
☎(082) 261-0563
FAX (082) 261-6628



広島県神社庁 副庁長 渡部 公麿

新年度のご挨拶

昨年度は出雲大社の大遷宮、そして神宮の御遷宮と慶節が相次ぎ、清々しく神々しい風をいただいた年であったように感じます。第百八十一回神宮式年遷宮におきましては、平成十八年四月畏くも天皇陛下の御聴許を拝し、式年遷宮の諸祭・諸行事は伝統に基づいて始められました。平成十八年四月、当県におきましても伊勢神宮展を福屋八丁堀本店におきまして開催し、県内神職、総代皆様のご理解ご協力をいただき、大反響のなか動員数も記録的な盛況のうちに開催され、伊勢と広島を結ぶ企画の一つでありました。その後、平成十八年十二月五日御遷宮募財活動を行う奉賛会広島県本部発足、関係者の七年余の長きにわたる赤誠の募財活動により、目標を大きく上回り、広島県民の神宮に対する篤敬の心を表し、捧げることができました。神宮におかれましては、昨年十月に皇大神宮・豊受大神宮・荒祭宮・多賀宮の遷御の儀が古式に則り厳肅に齎行されました。去る、三月二十六日天皇皇后両陛下には神宮へ御親拝あそばされ、二十一年に一度の剣璽御動座も行われました。今年度に入りましても、別宮において十四別宮のうち残る十二別宮の遷宮が行われていきます。遷宮の神風は今年もただけです。これからも御遷宮の意義を広く啓蒙しつつけるだけでなく、昨年より行っております広報活動に着目し、テレビ、ラジオ、インターネットを活用した伝統文化の継承、家庭祭祀の振興に努めたく存じます。

三月に開催した定例協議委員会において、今年度の運営方針も決まり、諸施策の達成のため、役職員一同一致協力して努力いたします所存でございます。

今年度も皆様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶いたします。

奴可神社宮司 中島好昭副庁長帰幽



奴可神社宮司(庄原市東城町小奴可) 中島好昭副庁長には、去る二月十二日 午前六時過ぎ、ご逝去されました。享年 六十三歳でした。

副庁長に就任されて一年足らず。常に斯界発展のために尽力され、その明るく性格と面倒見の良い人柄で私どもを指導してくださいました。昨年末の教化常任委員会、不活動神社対策会議では元氣なお姿を拝見していただだけに急逝の悲報に接し、誠に痛恨の極みであります。皆のご快癒への願いもむなしく、申し上げるべきこともありません。

先生は、皇學館大学文学部、國學院大學神道学専攻科に学び、昭和四十九年から神明奉仕のかたわら教師として高等学校に勤務されました。平成十八年に庄原格致高校高野山分校の校長を最後に退職されるまで二十二年間、多くの教え子を育て社会に送り出されてきました。教育者としての経験は、神職育成や神道教化の現場でも存分に発揮され、神社庁研修所講師や全教神協中国地区の常任理事として活躍を頂きました。

人情味厚く、誰に対しても誠心誠意、公平無私であった先生は、地域にあつては民生委員・児童委員。神社庁比婆東支部では副支部長、支部長を歴任され、



頭に置いて活発に考えを交換したものです。

神社庁長に御推挙賜り副庁長の人選を一任されたとき、是非にと懇願したのはあなたが一番の適任者だと確信していたからであります。学歴はもとより人としてまた社人としてこの上ない神職でした。特に比婆荒神神楽に代表されるような「神と人の交わり」は、あなたにしか解らないことがいっぱいあったことと拝察します。それもご尊父様から引き継がれたものでしょう。我々には多くの先輩諸兄からもつとご意見を戴き、自分で理解納得して後輩に伝えていく重責があるのです。

中島好昭君がやり残したものは多すぎます。我々が引き継ぐには専門的すぎて力不足です。ただ御息息をはじめ貴男の後を慕う多くの人たちが、同じ思いと責任を持って、これからできる限りの努力をしてくれることと思えます。その手助けは御尊父中島一史翁もご健在ですから大いに力を発揮してください。存じます。

天上よりすべてのことに御助力賜りますようお願いし、御霊只管に安からんことを祈念いたし追悼の文といたします。

中島好昭副庁長を偲んで

空鞘稲生神社宮司 内田 嘉彰



中島好昭副庁長が今年二月十二日忽然と逝つてしまいました。残念というほかありませんが、大変なショックを受けています。我々館友仲間は「あの元氣な奴が」と一様に驚きを隠せません。尤も番驚いているのは他ならぬ中島副庁長本人では無いでしょうか。志なかばの無念さは思うに余りあります。

誰もがその風格に惹かれ、その徳を慕っていました。しかし再び親しく教えを乞うすべはありません。

先生のご功績に対し、深く尊敬と感謝を捧げ、謹んで御霊のご平安をお祈り申し上げます。尚、中島副庁長には二月十一日付で、神職身分一級が追贈されました。

追悼

広島県神社庁長 吉川 通泰



今日は四月一日、新年度の始まりです。境内やあちらこちらの花が今を盛りと咲き誇っています。学校に新たに入学する子供たち、新成人となり社会へ巣立っていく若人たち。街行く人々は希望にあふれた笑顔で、それぞれのスタートラインにつきました。

昨日、御息息中島好古氏より五十日祭齋了の旨の御挨拶状を頂戴いたしました。二月十二日突然逝つてしまわれてより、もうそんな時は経つたのですね。今でも貴男がすぐ側にいるような気がするのは小生だけでしょうか。実に面白く楽しい人生をあとという間に過ぎされました。幼いころより同級生ということもあり、特別昵懇にさせていただきました。雪の多い比婆郡と海水浴のできる福山は何かにつけてその対比で話題は尽きませんでした。父同士もまた同じような境遇でしたのでお互いに忌憚のない気持ちでぶつけ合っていました。特に終戦後の神社界のこと、神宮様のこと。我々はその父たちの影響を受けて、そのことをいつも念

私と中島副庁長との出会いは、昭和四十四年に遡ります。皇學館大学合氣道部に初々しい新入生として入部してきました。同じ広島県人と言うことでより親密に感じていました。夏は、灼熱の小豆島でぶつ倒れるまでの稽古、冬は寒風吹きすさぶ中の五十鈴川での大寒禊、朝は朝星、夜は夜星、一週間ぶつ続けの寒稽古。汗と涙を流しながら結構激しい稽古をする合氣道部でありましたが、彼は弱音を吐くこともなく黙々と稽古に励んでいました。精華寮に帰れば得意の広島弁で楽しそうに話をする笑顔が懐かしく思い出されます。

飄々として兎に角真面目です。その質朴な人柄は誰からも好意を持たれました。当時の皇學館大学合氣道部に於いては珍しい勉強家であったと記憶しています。合氣道部にとつては真面目さゆえシゴキにくい後輩の一人でした。懐かしい倉田山での思い出です。

卒業後は、教員を務めながら家業の神主活動に励んでいましたが、各方面に於いても県北にあつて異彩を放っていました。目立たないけれども大変に存在感のある人物でした。

学生時代は、前述の如く真面目従順素直。我々先輩としては、扱いやすい後輩ではありましたが、その実は頑固実直を絵に描いたような男で、こうと決めたら梃子でも動かさない芯の強さを秘めていました。色々な場面で話を聞いて彼の信念の強さに舌を巻くことも度々ありました。凄いな男だと思っていました。

その彼が満を持して広島県神社庁の副庁長に就任しました。広島県の神社界がいよいよ面白くなるなど密かに楽しみにしていた矢先の逝去です。まことに残念無念と言うほかありません。衷心より哀悼の誠を捧げます。

平成二十五年度定例協議員会

平成二十六年年度予算・諸議案承認される
去る、三月二十四日に平成二十五年度定例協議員会が神社庁にて開催された。

山田茂雄副議長進行のもと、平成二十五年度業務報告、平成二十四年度一般会計・特別会計・事業委員会会計が報告され、いずれも報告通り承認された。

次いで平成二十六年度神社庁運営方針・業務計画・新年度予算が上程され、原案通り可決された。

また、役員欠員による神社庁役員の変更が行われ、御調八幡宮宮司・桑原國雄氏が副庁長に選任された。

協議員会に先立って、庁舎神殿に於いて班幣式が行われ、本庁よりの幣帛が庁長・副庁長から各支部長に手交された。



新副庁長の就任あいさつ

平成二十六年年度 広島県神社庁運営方針

- 一、皇室の歴史と伝統を尊重し、皇室敬慕の念の発揚に努める。
- 一、遷宮による常若の清々しい精気を受け、さらにその意義の啓発と参宮の推進に努める。
- 一、マスメディア等の広報活動により、神社祭祀を基盤とする伝統文化の継承と神宮大麻の頒布向上、及び家庭祭祀の振興に努める。
- 一、神社庁組織の強化と神社の管理運営のさらなる充実を務める。
- 一、各種研修会の充実に努め、神職・総代の資質の向上を図り、以て教化実践に資する。

副庁長就任にあたって

副庁長 桑原 國雄



この度、神社庁役員会、定例協議員会の承認を得て副庁長に就任することになりました。大変な重責であります。その責任の重さを日ごとにヒシヒシと感じております。

前副庁長でありました中島先生とは、広島県教育関係神職協議会で度々お目にかかり、幹事長としてよくお世話されていたことを思い出します。人柄も温厚で昨年吉川庁長、渡部副庁長とともに神社庁の新体制が発足しましたことを喜んでいた次第です。

追林前庁長、潮副庁長には神宮の御遷宮を指導され、大変立派な業績を上げられましたこと一神職として喜んでいました。第十二回の御遷宮は、御遷宮の歴史の中で最も盛大にして古式に則り賑々しく執り行われた神事です。前任の皆様のご努力の成果と感銘しております。

今日神社界に世人の注目が集まる中で、先人の残した伝統を継承し、吉川庁長、渡部副長に全面協力し、中島先生のやり残された庁務を微力ではありますが、斯界の発展のため努力させていただきます。と思っています。

データ非開示

第六十二回神宮式年遷宮
 (財)伊勢神宮式年遷宮奉賛会
 広島県本部解散する

(財)伊勢神宮式年遷宮奉賛会広島県本部(深山英樹本部長)は去る三月三日、広島駅前のホテルセンチュリー21広島を会場に解散式が行われ県内の関係者約九十名が出席した。解散式に先立ち、県本部理事・評議員合同会議が開催された。

会議は、深山英樹本部長(広島ガス株式会社社会長)の挨拶に続き、澤山義久神社庁協議員会議長を議長に選出し議事が進められた。はじめに潮健史県本部事務局長より、県本部設立以来七年間に渉る業務報告並びに累計決算報告の説明がなされ、異議なく承認された。続いて、吉川通泰庁長(副本部長)より「県本部は、所期の目的を達成したので本日三月三日を以て解散する」旨を宣し、県本部の解散が決議された。

最後に解散決議を受けて、県本部が七年間の募財業務によつて生じた残余財産の処分について潮事務局長より「本日の解散式終了後から本年三月末迄の残務整理中の出納管理責任者は、広島県神社庁長とし、三月末で締めた結果生じる残余財産は過去の慣例に倣い広島県神社庁の管理とする」ことの了承を提案し、異議なく承認され会議を閉じた。

閉会后、隣室に移動し解散式が開催された。式典は午後四時より始まり、開式儀礼に続いて深山本部長が挨拶に立ち「神宮式年遷宮は千三百年來脈々と受け継がれてきた世界に誇るべき伝統文化であり、幾久しく守り伝えて行くべき日本の心であります。本日は奉賛会県本部の解散であります。同時に二十年後の第六十三回式年遷宮の奉賛活動元年との御認識を

お持ち戴き皆様方の更なるお力添えを戴きますよう切に念願します」と述べた。

また吉川庁長の挨拶では「神社界のみならず日本人の心のふるさととは神宮、神社にあります。今の感激の気持ちをも多くの方々に共有していただき、次期第六十三回式年遷宮へ繋いで行こうと確信する次第です。」と述べられ、続いて解散決議が報告された。

感謝状贈呈式では、高城神宮少宮司より、奉賛目標額を達成した当県本部に対して感謝状並びに記念品が贈呈され、次いで、本部長・奉賛会設立運営としての功績者六名、地区本部役員としての功績者五十九名、支部長・副支部長並びに支部署務局としての功績者八十五名、地区本部事務局員としての功績者十二名に対しそれぞれ感謝状並びに記念品が贈呈された。

その後、来賓として鷹司尚武神宮大宮司(代理・高城治延少宮司)、神社本庁統理(代理・田中恒清総長)、(財)伊勢神宮式年遷宮奉賛会長岡村正(代理・小川優総務部長)がそれぞれ祝辞を述べた。

解散式終了後、祝賀会の冒頭で第六十二回伊勢神宮式年遷宮「齋行への足跡」なるDVD上映があり、田中総長の発声で乾杯し、県本部の目標達成と無事に遷宮が齋行されたことを喜び合った。

今回の御遷宮に当たっては、平成十八年四月二十一日の



(広島県本部事務局長 潮健史)

(財)伊勢神宮式年遷宮奉賛会設立の二年前、平成十六年七月に神社本庁に第六十二回神宮式年遷宮の広報活動を円滑に進めるために、神宮と神社本庁、そして神社新報社の三者によつて伊勢神宮式年遷宮広報本部が設立された。当広報本部は、既に神宮PR映像や遷宮イメージソング(藤井フミヤ氏作詞・作曲)の制作、「遷宮について語る夕べ」シンポジウムの開催など、様々な活動を進めてきた。

こうした活動により、マスコミにも再三取り上げられ、伊勢神宮の存在と遷宮の意義が広く国民に知られたのではと思う。参拝者は数年前から毎年百万人単位で増加し、遂に遷御の儀が行われた昨年は千四百数十万に達したとのこと。

この流れを絶やすことなく神宮尊崇の念の涵養と神宮大麻の増体に繋げたいものである。

データ非開示

平成26年度神社庁行事予定表

実施予定月日	行 事	対 象	主催・担当	場 所
26 4 18(金)	教化常任委員会	教化常任委員	教化委員会	神社庁
26 4 18(金)	教化委員会	教化委員	神社庁	神社庁
26 4 24(木)	神社建築視察研修会	神職	事業委員会	尾道支部内
26 5 8(木)	不活動神社対策会議	該当者のみ	神社庁	神社庁
26 6 3(火)	神社庁役員会	神社庁役員	神社庁	神社庁
26 6 3(火)	神社庁常任協議員会	役員・支部長	神社庁	神社庁
26 6 5(木)~6(金)	初任神職研修(前段)	初任神職	神社庁研修所	神社庁
26 6 17(火)	教養研修会	神職	教化委員会	神社庁
26 6 20(金)	表彰委員会	表彰委員	神社庁	神社庁
26 6 29(日)	神社検定	一般	日本文化興隆財団	神社庁
26 7 3(木)	身分選考委員会	身分選考委員	神社庁	神社庁
26 7	祭祀舞研修会(浦安の舞…扇舞)	神職他	神社庁研修所	神社庁
26 8 7(木)	教化常任委員会	教化常任委員	教化委員会	神社庁
26 8 7(木)	教化委員会	教化委員	教化委員会	神社庁
26 8 26(火)	第59回広島県神社関係者大会	神職・総代他	神社庁・総代会	県立文化芸術ホール
26 8	祭祀舞研修会(浦安の舞…鈴舞)	神職他	神社庁研修所	神社庁
26 8	祭祀舞研修会(朝日舞)	神職	神社庁研修所	神社庁
26 8	人権教育推進委員会	人推委員	人権教育推進委員会	神社庁
26 9 4(木)~5(金)	初任神職研修(後段)	初任神職	神社庁研修所	神社庁
26 9 10(水)	神職専門研修会	神職	神社庁研修所	神社庁
26 9 19(金)	神職身分認定証交付式	昇級者	神社庁	神社庁
26 9 25(木)	神宮大麻暦頒布始奉告祭	役員・支部長	神社庁(比婆西支部)	神社庁
26 11 27(木)	第60回伊勢神宮新穀感謝祭	神職・氏子・崇敬者	神社庁	神社庁
26 12 4(木)	神社実務研修会	神職	神社庁研修所	神社庁
27 1	神社庁歳旦祭	三庁長・神社庁職員	神社庁	神社庁
27 1	神社庁役員会	神社庁役員	神社庁	
27 1	神社庁・総代会合同新年互礼会	神社庁・総代会関係者	神社庁・総代会	
27 2 14(土)	神社庁例祭	役員・支部長・神職他	神社庁	神社庁
27 2 19(木)	教化常任委員会	教化常任委員	教化委員会	神社庁
27 2 19(木)	教化委員会	教化委員	教化委員会	神社庁
27 2	参与会	神社庁参与	神社庁	
27 3	神宮大麻、暦頒布終了奉告祭	三庁長・神社庁職員	神社庁	神社庁
27 3	神宮評議員会	神社庁役員	神社庁	神社庁
27 3	人権教育推進委員会	人推委員	人権教育推進委員会	神社庁
27 3	祭祀舞研修会(朝日舞)	神職	神社庁研修所	神社庁
27 3	班幣式・定例協議員会	神社庁役員・協議員	神社庁	神社庁

データ非開示

各委員会の平成二十五年度活動報告及び平成二十六年活動計画

教化委員会 委員長 太刀掛祐之

平成二十五年度の報告

教化委員会 三回開催

中国地区教化会議(島根県) 三名参加
全国教化会議(神社本庁) 一名参加

【研修部会】

教養研修(六月十三日)、専門研修(九月二日)、教養並びに神葬祭研修(十二月五日)を神社庁にて開催。のべ百八十五名の参加

【奉養広報部会】

教化ポスターの作成と、広島県神社庁公式ホームページの開設(十二月十日)

【調査研究部会】

専門研修会(九月三日開催)にて、『過疎化問題と広島県内の神社の現状』の報告
特殊神事DVD作成に向けての準備

平成二十六年年度の計画

【研修部会】

教養研修(六月十七日予定)、専門研修(九月十日予定)、実務研修(十二月四日予定)

【奉養広報部会】

教化ポスターの作成と、神社庁ホームページの更新

【調査研究部会】

「広島県下の特殊神事」DVDの編集、ならびに「広島県下の過疎化問題」の調査研究。

任期二年目となり、事業の方向性の確認と、継続事業については事業内容をブラッシュアップしていく年となりました。引き続きどうぞ宜しくお願い申し上げます。

事業委員会

委員長 大巳至通

常日頃より事業部をご利用賜り厚く御礼申し上げます。最初に二十五年度の事業報告です。

①神社建築視察研修の実施

昨年の斤報で結果速報、記させて戴いていますが、神石支部のご協力の下、有意義に無事開催できました。

②予算、扱い件数の回復・目標達成

皆様のご利用機会増に伴い予算など目標を達成しました。有り難うございます。

③カレンダーの改善発行

使い易さなどの要望また内容を精査し、一昨年のカレンダーをベースに発行しました。

さて、新年度(二十六年)ですが、昨年同様の事業計画をしておりますが、何と云っても消費税が八%になりましたことを特に留意しながら進めたいと考えております。

①引き続き神社視察研修会を実施します。
②予算、扱い件数の確保。先に触れたように消費税の負担増による様々な事象を最小限に食い止め、本会計などへ影響のないよう努めます。

③広島県内神社実情に合わせた新製品の探求。一例として、大麻の増頒布に繋がる「二かないか?」などです。
わずかな事でも結構です。どうか「福利厚生」
「地産地消」思考概念を共有戴き、「ご利用お願い致します」。

斤報編集委員会

委員長 山田茂雄

二十五年は編集委員が3名入れ替わり、新たな発想も取り入れ左記計画の下、編集にあたりました。

①神社庁、神社庁各委員会と連携を図り、それぞれの情報を提供する。

②県内各神社の活動、特有の祭り等紹介する。

③「広島県の神楽」「神社の文化財」等の

特集をする。

④新たな企画の取り組み。

二十五年度は各部門の協力を頂き、一一〇・一一一・一一二号を計画通りの内容・期日に発行することが出来ました。特に神宮式年遷宮関連の記事掲載につきましては充実したものとなりました。『広島県の神楽』につきましては、県西部で行われている「神祇奉納」の現状を各神社の協力の掲載することが出来ました。④につきましては「健康管理について」「神社と総代の関係について」のシリーズを専門家の宮司様の協力を得て掲載することが出来ました。

来期に向けて、一部文字が小さく読みにくい、記事の遅れ、年男の写真が揃わなかった等の課題が残りました。

二十六年度は昨年度の計画を継続し、サイズ(判型、文字)の見直し、新たに始まったホームページとの連携等に取り組みます。各神社、神社庁各委員会、支部通信委員の協力をいただき、掲載依頼が多数舞い込む魅力ある斤報情報誌とすべく活動して参ります。

人権教育推進委員会

委員長 佐々木千代則

平成二十五年度人権教育推進委員会は、第一回を平成二十五年八月七日(水)に、第二回を平成二十六年二月七日(水)に開催した。

第一回委員会

一、皇室典範の動向について

・総選挙の結果民主党政権が退陣し、再び政権の座に返り咲いた自民党政権は、民主党が行ってきた検討作業を白紙に戻し、皇室の安定性を巡る問題については白紙から検討する考えを示した。

二、氏子数の減少等に対する現状と対応策について各ブロック、各支部、各神社のそれぞれの現状を報告した。

第二回委員会

一、氏子数の減少等に対する現状と対応策について

・伝統行事の継承が危ぶまれる
(例)注連縄つくりできる人が少なくなっている
・少子高齢化、過疎化等課題が山積している。
・自治振興区との連携。
・地域活性化事業の活用。
・氏子と神職との相互理解等強い結びつきが肝要である。

この課題(氏子数の減少)については、これからも継続して取り組む必要がある。

祭祀委員会

委員長 福場快之

各部会の活動として、祭祀部会は五月に中国地区中堅神職研修会(二十六名)、六月の初任神職研修会前段(十三名)、七月の直階階位検定講習会(十八名)にて講義と演習、

十二月の神社庁教養研修会では、潮先生の「神葬祭における奉幣行事」に協力しました。
神道行法部会は、大頭神社(廿日市市大野)を会場に、六月に広島県女子神職会十四名が禊を行い、恒例の日本青年協議会が二月に、広島工業大学生有志が同じく二月、広島県青年神職十六名が三月に禊研修を行っております。
また、六月には高尾神社(呉市焼山)で、呉昭和高校の野球部員十七名が禊を体験しました。
祭祀舞部会は神社庁が年間行事として行う、七月・八月の浦安の舞、八月三月の朝日舞研修会が開催され、特に浦安の舞については、今回も多くの方が受講・研鑽され、成果を上げました。
雅楽部会は、二月十四日の神社庁例祭に於いて、三管三名の息の合った奏楽が祭典を厳かに醸し出しました。これは会員が毎月行っている稽古の賜物と感じます。

新年度についても、これまでと同様の各種研修会を計画しておりますので大勢の受講を、お願い致します。

神職の中で、研修会に参加する機会はないが、祭祀に関心がある方は、遠慮なく其々の部会長・部員にご連絡下さい。

神社庁関係団体 平成二十五年度活動報告

広島県神社総代連合会

会長 中丸元夫

広島県青年神職会

会長 梶山政孝

平成二十五年は、伊勢神宮で二十一年に一度の式年遷宮が斎行され、出雲大社では、六十年ぶりの大遷宮がありました。神社界における大きな事業は、社会にも刺激を与え、全国的に神社ブームの現象が見られた年でした。こうした中で総代会の活動はみなさんの協力のもと計画通り順調に実施されました。

五月に開催された県神社総代連合会研修会は、前年度が台風のため一日の行事を中止したことから、再び佐伯大竹支部が担当して実施しました。初日は、河内神社と大頭神社に正式参拝し、翌日は宮島を廻る「お島巡りとお島喰式」に参加、終了後は厳島神社で奉告祭に参列しました。その他の事業活動は次のとおりです。

二十五年度活動報告

- 4月16～17日 第三十六回総代会幹部研修会 一名
- 4月22日 県神社総代連合会役員会 一〇名
- 5月21日 県神社総代連合会評議員会 二〇名
- 5月28～29日 県神社総代連合会研修会 三四名
- 6月20日 神社庁・総代会合同会議 四八名
- 8月28日 第五十八回広島県神社関係者大会 一、七八〇名
- 9月10日 第四十九回全国神社総代会大会 二名
- 1月17日 神社庁・総代連合会合同新年互礼会 四七名
- 各地区総代連合会研修会 (十九地区延べ) 一、六四九名

平素より、当会の諸活動に御理解御協力いただいておりますこと、心より厚く御礼申し上げます。
平成二十五年は当会創立六十周年を迎えたことで、年度初めよりこの記念事業に邁進する一年でありました。お白石持行事への参加、奉告祭、記念大会を柱にした一連の事業は、ご関係各位の多大なる御支援のお蔭を以て無事に終えることが出来、改めて深く感謝を申し上げます。この六十周年行事につきましては別記ご報告申し上げます。

さて、会務としては、前年度より新たに「青神塾」なる勉強会を立ち上げ、二十五年は七度の開催を致しました。祭式作法や神社研修等、神職としての基本はもとより、神楽や茶道、和裁といった教養技能を学び、健康管理のため体内測定やダンスも行いました。現段階は広く浅くではありますが、個々の自己研鑽のきっかけになればと考えております。

また、「神政連青年隊」として、夏に行われた参院選での支援者への電話活動や、時局講演会の際のお手伝いをさせて頂きました。

歴々の先輩諸兄が残されました伝統ある活動、その業績に恥じぬよう、より良いものを目指し行なってまいりますので、今後ともご教導賜りますようお願い申し上げます。

広島県女子神職会

会長 平田八千枝

広島県敬神婦人会

副会長 高橋育代

本年も早四月半ばと相成り桜も散り始めております。皆様方には温かい御支援御協力を賜り、心より御礼申し上げます。お陰様で昨年度の諸行事を恙無く終えることができました。通常の例会のほか六月には鍊成行事道彦の松原弘毅先生に禊と鎮魂の研修を、十一月には祭式講師の福岡快之先生に地鎮祭の実技指導を行っていただき、いずれも有意義且つ楽しく和やかな研修会となりました。

さて、二十六年度最初の行事として四月七日には三原市に鎮座の糸崎神社様(竹田裏宮司)に二十三名が参拝させていただきました。来たる六月には、中国五県持ち回りの大きな行事であります「中国地区女子神職研修会」を広島が当番県となり、呉市にて開催致します。当日は吉川通泰庁長様と呉市長小村和年様に御講演をお願い致しております。各県からの多くの御参加をお待ちすると共に、会員の皆様にご尽力賜り無事に終了出来ますことを切に願っております。

平成二十五年度会務報告

- 3月13日 総会 十六名
- 4月19日 正式参拝 長神社(福山市) 十七名
- 5月9日 日本書紀輪読*祭式 二十三名
- 6月6～7日 中国地区女子神職研修会(鳥根県) 十五名
- 6月19日 神道行法鍊成研修会 大頭神社(廿日市市) 十四名
- 9月6日 日本書紀輪読*浦安の舞 十六名
- 11月8日 祭式研修会 二十五名
- 1月16日 教養研修(祝詞)*新年互礼会 十六名
- 2月7日 日本書紀輪読*教養研修(祝詞) 十八名
- 2月21日 全国女子神職協議会設立二十五周年記念大会(伊勢市) 七名

昨年度は、第六十二回神宮式年遷宮遷御の儀が斎行された記念すべき年でありました。

平成二十五年第三十二回広島県敬神婦人会の総会は、四月二十六日に「メルパルク広島」で吉川庁長ご臨席の下、六十二名の参加で開催致しました。

恒例行事として、青年神職会「神職子弟の集い」に協力して、八月十八日から十九日に神宮式年遷宮の「お白石持行事」に参加し、八月二十八日の県神社関係者大会の支援活動として十五名が参加致しました。日の丸小旗作りでは四五〇〇本を制作致しました。又、各行事実施のための役員会の開催、会報「あさなぎ」第二号を発行致しました。

創立六十五周年記念第六十四回全国敬神婦人大大会が九月三日に島根県民会館で開催され、一三〇名の参加のもと、大遷宮が行われた出雲大社に正式参拝し、清興では「石見神楽」を鑑賞し、式典では、神宮斎主池田厚子様のお言葉を、又、六十五周年記念として個人表彰六名と六単位会を表彰して頂きました。

この様に全ての活動が盛況に滞りなく行われました事は、偏に日頃から皆様より諸活動にご協力、ご支援を賜っております。厚い感謝の思いとお礼を申し上げます。

二十六年度、第六十五回の全国大会は九月二十五日に鹿児島県で開催されます。是非多数のご参加をお待ちしています。

シリーズ

神社の社叢について

三篠神社 榎宜 野上光康

【はじめに】

今回から三回に分けて社叢についてお話しします。神社へ参拝すると、外の世界とは違う、静けさや厳かさ、神々しさを感じると思えます。社叢には、このような雰囲気を作り出す大きな役割があります。人々が快適に散策するために人工的に作られ、管理された公園の緑とは違い、畏敬の念を抱かせる森です。

森に対するイメージ調査を行うと、奥深いか神秘的、神々しいといった回答が多いと聞きます。本来、人間は、森に対して畏怖の念を持ち、神秘的で神様が居られる所といった感覚を持っているのでしょうか。社叢は、そのような空間を再現したものともいえるのでしょうか。

【社叢を育んできた要因】

社叢には、神社の環境等により様々な姿があります。構成する樹種は、平均気温の影響を受けます。県土の広い広島県では、瀬戸内海に面した温暖な常緑広葉樹林から、雪の多い中国山地の落葉広葉樹林までの森林帯が分布しており、同じ県内でも育つ樹種が異なってきます。

また、原爆等の戦災、台風・津波等の災害を受け、社叢が一度破壊され、新たに再生させた森もあります。更に、境内が狭隘であったり、民家等が密集しているような

立地条件では、クスノキやケヤキなど大きくなる樹木を育てることが困難なこともあります。

【大都会に作られた人工の森】

社叢を守っていくことは、さまざまな苦労が伴いますが、健全な森を育んでいく上で、大変参考になる森があります。大正時代、ほとんど田畑と草地だった所に、献木と勤勞奉仕により人工的に作られた明治神宮の森です。

植生遷移が進んだ将来の森の姿を予測し、神社に相應しい気候風土に合った郷土樹種を植え、天然の力により、更新される永遠の森として計画された森です。約百年経った現在、当初の狙いどおり、鬱蒼とした森に育っています。

健全な永遠の森を目指し、郷土樹種を土地の状況(尾根、谷等)に応じて植えるなど大いに参考になる点があります。次回参拝された折には、是非そのような視点でご覧になつてみてください。



広島県青年神職会創立六十周年を通して

実行委員長 吉川泰正

今回私達は「繋ぐ」をテーマとしてこの広島県青年神職会創立六十周年関連事業を執り行つて参りました。先ず第六十二回神宮式年遷宮に際しましての小白石持ち行事に、神社界の将来を担う神職子弟と共に参加を、また去る平成二十五年九月六日には当会が結成された由緒ある神田神社(池田雅美宮司)にて奉告祭を斎行致しました。それによりましては先輩方に多数の御参列を賜わり、特に当会設立に携われました中島一史先輩にお出まし戴き、親しくお話を頂戴出来たことは望外の喜びでありました。そしてこの六十周年を一つの節目とするべく、これまでの歩みを纏めた記念誌を発刊致します。

そして平成二十六年二月二十六日、盛大に広島県青年神職会創立六十周年記念大会を開催させて頂きました。式典には吉川庁長様をはじめとして、県内多くの宮司様にお越し戴き、また全国から神青協南坊城会長をはじめとして多くの役員の皆様、また中国五県からも正副会長や多くの仲間が駆けつけて下さいました。記念講演として国際青年会議所の会頭をお勤めになった原田憲太郎先生をお招きして、私達青年神職のこれから世界に対して成すべきことを示唆頂きました。続く祝宴にもご来賓方大勢が引き続きのご出席を戴きました。清興としての「壬生の花田植え」も祝宴を華やかに盛り上げて下さり、県外より

のご来賓の方々にも好評でした。

最後にありますが、世代を繋ぎ、日本中の仲間と繋がり、このまちと繋がる。この周年事業を通じてその主題に基づいた事業が出来たことに感謝を、また引き続きこの頂いた繋がりを強くしていくことをお約束致しまして、この周年事業にご賛同下さいました関係各位への御礼と致します。有り難うございました。



吉川庁長祝辞



梶山会長あいさつ

尾道御調支部「春の研修旅行を実施」

尾道御調支部(豊岡高和支部長)では、支部内神職・総代・氏子等を対象にした春の研修旅行を一泊二日で実施しました。三月八日から九日の日程で、「国宝 大神社展」の見学と宗像大社、宮崎宮、太宰府天満宮への参拝を行いました。当日は、支部内神職十二名を含む総員百名余、大型バス三台に分乗し目的地の九州福岡へ向け出発し、まずは宗像大社、宮崎宮に参拝し、神社の由緒などの説明を受け、立派な社殿を見学しました。

嬉野温泉で一泊し、太宰府天満宮へ向かいました。本殿にて正式参拝を行い、豊岡支部長の玉串奉奠に合わせ、参加者全員で拝礼しました。太宰府天満宮の神職の方々に由緒・御祭神また境内の神苑の案内・説明等を頂きました。引き続き九州国立博物館で開催中の「国宝 大神社展」へ見学に参りました。最終日と云う事もあり会場は多くの見学者で賑わっており、全国から出展された古社宝・装束・神像・神社の風景・祭りのにぎわい等、展示方法に多くの工夫が凝らされており、大変見応えがありました。



(前田益弘 通信員)

支部だより

府中芦品支部(後給照男支部長)は、「新年の互礼会」と「神社参拝」をかねた九州国立博物館での「国宝大神社展」参観と「太宰府天満宮」参拝の研修会を平成二十六年二月二十七日に参加者四十八名で行った。新市を午前六時三十分に出発し、午前七時には全員が乗車すると支部長の開会挨拶を皮切りに、「国宝大神社展」の事前学習として、同支部教化委員が「①九州国立博物館の見方」、「②展示のみどころ」を解説した。午前十一時三十分には、太宰府の門前町に到着し、すぐさま太宰府市教育委員会の学芸員の案内で、江戸期の宿である「松屋」の見学を行い、太宰府門前町および太宰府天満宮の歴史と文化の解説を堪能して、天満宮に参拝した。昼食後は、隣接する九州国立博物館において「国宝大神社展」を自由参観し、三時三十分には全員が集合場所に集合し、太宰府閣連の遺跡をバスの車中から解説いただき、午後四時には高速道路に乗ることができた。途中事故による渋滞に巻き込まれたものの、午後十一時には無事に府中・新市に到着することができた。往復に時間がかかったものの、大きな博物館での展示見学の場、事前に学習することにより、短時間に効率よく成果が得られることを実践できた研修会であった。(尾多賀晴悟 通信員)



神石支部「神宮参拝」

去る、三月十五日・十六日に神石高原町「旧三和町」の氏子四十三名が神宮参拝をした。

これは神社毎に行う参宮とは異なり、町内全域に案内を出して「大勢の氏子・崇敬者で参宮しては」と各官司が予てより立てていた計画が実現したものであり、瀬尾清孝支部長を団長とする一行は十五日の早朝に神石を立ち、まず、午後に猿田彦大神の総本宮である椿大神社に正式参拝した後、外宮に於いて御垣内参拝し、この旅行の主眼である古殿参拝を行った。

外宮は一般参拝者が多いものの、遅い時間になった為かゆっくり参観が出来、御正殿は元より垣内を限なく見学した氏子は、二十一年に一度の好機会に参拝出来て、感激ひとしおの様子であった。

翌日は二見興玉神社に参拝の後、内宮にて御神楽奉奏と御垣内参拝を行い、おはらい町にて昼食、暫し散策と買い物をした一行は、再度外宮に向かい、せんぐう館を見学して帰路についた。

両日共に天候に恵まれ御敷地内に入り、古殿参観と共に間近に新御正殿を拝めた事は大変有難く、氏子からの感懐にこの旅行の成果を感じた。物見遊山の旅行では無いと、服装・車中での飲酒については厳しく対応したが、帰りのバス内では和らいだ雰囲気、無事に帰宅した。

(福場快之 通信員)



府中芦品支部「国宝大神社展と太宰府天満宮参拝研修会」

福山支部「神社の防犯・防火対策」

3・11「東日本大震災」から三年が過ぎました。この地にも何時災害が襲いかかるかわかりません。このような震災は、ある意味で特別な事例かもしれませんが、火災や盗難は、神社にとって、常に危惧しなければならぬことではないでしょうか。

鎮守の杜に囲まれたお社の多くは、いつもは無人のところが多いことでしょうか。私どものお社も同じことです。今までに何度となく夜間警備箱を荒らされたり、直接お社に被害はありませんでしたが、たばこの火の不始末から鎮守の杜の一部が焼失するという被害を受けました。この時幸い近所の方の通報から消防署・消防団が駆けつけて下さり、大事には至りませんでした。

数年に一度、文化財保護の観点から、お社を対象に、近隣の方を含め、地域消防団・消防署が合同で防火訓練を行っています。昨年はその年でした。このように訓練と、近隣の方々の見守りはお社の安全確保に欠かせません。一方で当社では、防犯カメラの設置や消火器の設置、燃えやすいものへの防火処理、さらに、拝殿への窓や扉の設置、本殿への立ち入り保護柵の設置等の対策を取っています。現在のところ一定の効果は上げているようです。

(岩崎欽司 通信員)



広島県神社庁・庁報誌「二葉」第123号をお届けします。ご寄稿頂きました皆様方に心より厚く御礼申し上げます。各支部・神社・委員会・通信員と連携を取って、魅力のある庁報・情報誌となるよう取り組んでいきます。皆様のご協力をお願い致します。 庁報編集委員会一同

写真提供：櫻井建弥庁報編集委員

呉支部

「特別展『高円宮家所蔵 根付と宮中装束』開催」

呉市幸町の呉市立美術館では、故高円宮殿下と久子妃殿下のコレクションを紹介する「高円宮家所蔵 根付と宮中装束」特別展が、三月一日から開催された。著名な収集家であらせられる高円宮殿下は「日本文化の粹である根付が広く海外に流出している事」を憂慮され、妃殿下とともに収集された。

高円宮妃殿下は開会式・講演会に臨まれ「根付は日本の文化の象徴、ありとあらゆる伝統的な技法を味わうことができる」と故殿下の言葉を紹介された。

根付は、今の携帯ストラップのような物で、和服を着ていた時代の人々が印籠などを帯から提げた紐の端に付けた留め具で、

大きさは数cmから1cmの物である。材質は堅い木(黄楊・黒檀)や象牙などが多い。江戸初期は簡素な物であったが、

時代と共に実用性・装飾性も重視され、高級武士、公家、茶人、町人に迄普及した。富裕層が所持した印籠や根付には

蒔絵や象牙等が使用され、お金に糸目をつけない芸術性を求めた。

特別展は根付等五〇〇点が展示され、他に「束帯」・「唐衣裳」



高円宮家所蔵
根付と宮中装束

など両殿下がお召しになられた宮中装束・殿下の愛用のカメラ・ギターなどが展示された。三月二十四日には来場者が一万人を突破し、盛況なうちに閉会した。

(加藤良三 通信員)



呉支部 「亀山神社参集殿の竣工成る」

呉市清水鎮座亀山神社(太刀掛祐之宮司)では、平成二十四年秋より参集殿の立て替え工事が進められていたが、平成二十六年一月に漸く竣工の運びと成った。旧社務所は昭和三十年に建築されたが、老朽化や地震対策、そして機能的に充分とはいえず総代会が中心になり新しい参集殿の建築が急がれた。

新しい参集殿は、延面積四百五〇二平米(収容人数七十人)と壮大であり、平屋建てでは有るが

周囲と調和して環境にマッチする建物である。亀山神社の新しい参集殿は呉市の中心部に位置し様々な催しに十分な広さと機能を併せ持つスペースを兼ねた建物で、今後の氏子の教化や神社の活動におおきな期待をもたせる「参集殿」である。

太刀掛宮司は「伊勢神宮のご遷宮があり、慶祝の極みの時に地方にあつても参集殿の整備事業を实地することは、ご神徳の発揚と大いなる神社奉護に資する」と述べられ、呉支部にあつても、この利便性に優れた施設を活用して教化活動と親睦を図りたく思う。

(加藤良三 通信員)

